

Title	史學研究會報告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1953
Jtitle	史学 Vol.27, No.1 (1953. 12) ,p.100- 100
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19531200-0100

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙報

七年戰營と米國植民地

牧野 信也君
深澤 幸雄君

史學研究會報告

第四一七回例會

昭和二八年七月四日午後一時 於七番教室

英國議會發達史

中村 秀勝氏

第四一六回例會

昭和廿八年六月六日午後一時 於七番教室

江戶時代前期における商業資本の發展とその Justification をめぐる町人論

梨本 幸男君

日本新石器時代に於ける石造遺構について 江坂 輝彌氏
半遊牧の古典的一形態
— イヌエラエルにおけるメトヴエーケを中心に —

秋草文壺發見の顛末

(昭和廿四年五月)

本年十月二十八日附の朝日新聞第一神奈川版(C)を見ると、「川崎市から申出る、秋草文壺の出土地」の見出しで、別稿に記したように出土地が南加瀬であることを指摘した上、更に續けて「その後附近の古墳を調査に來た慶應大學史學科の清水潤三助教授や學生らが同家に立寄りタゞでもらつて行つたが云々」と書いておられるのは心外である。加瀬古墳調査終了の際、當事者は將來新發見がなされた場合には通報方を青山勘五郎氏に依頼しておいた。偶々昭和十七年四月に至り、同氏から松本信廣教授に宛て遺物發見の報が届き、筆者は命ぜられて同二十九日現地に赴き、既に掘り出されて地主故仁藤市太郎氏宅の裏手竹藪内におかれたこの壺を見たのである。この時故仁藤氏は火葬骨の充滿した壺を薄氣味悪く思われたのであろう、進んで本塾に寄贈を申出られ、たゞ骨のみは附近の寺に埋葬供養したいと希望された。筆者はこの日は再來を約して歸り、五月二日改めて河北展生氏と共に仁藤氏を訪い、松本教授から託された謝禮金と供養料とを手交し、壺をリユツクサクに入れて持ち歸つたのである。しかも汗顔の至りであるが、當時この壺が果して幾何の學的價值ありやに就ては全く知る所がなく、むしろ諸先生方から冷笑を浴びるのを覺悟して居つた。まことに偶然な出來事で今後再びかような事があるとは思われぬ。たゞ新聞記事によつて多くの人々が考古學關係者に疑惑の眼を向け、今後の研究に際して無用の摩擦が生ずることを懼れる。この機會に當時の真相を述べておく。

(清水 潤三)